

# 患者の皆様へ

2017年2月22日  
千葉大学血液内科

現在、血液内科では、「悪性リンパ腫における血清可溶性 LR11 の臨床的意義に関する研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では悪性リンパ腫の患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

## 1. 研究課題名 「悪性リンパ腫における血清可溶性 LR11 の臨床的意義に関する研究」

## 2. 研究の意義・目的

「可溶性 LR11」は従来、動脈硬化やアルツハイマー病患者の血液中で高い濃度になることが知られている物質です。わたしたちはこれまで、LR11 が悪性リンパ腫細胞そのからつくられ、血清中に放出されていることを独自に見出しました。そこで本研究は、悪性リンパ腫患者様の血清可溶性 LR11 値を測ることにより、悪性リンパ腫の診断補助ならびに予後予測マーカーとしての有用性を検証することとしました。この研究により、悪性リンパ腫の診断がよりしやすくなる可能性や、診断時の血清可溶性 LR11 値を参考に、治療効果や生存率を予測する新しい方法が確立できる可能性があります。また今回の研究結果は、可溶性可溶性 LR11 を測定する検査キットについて、体外診断用医薬品として製造販売承認申請を行うためのデータに使われます。

## 3. 研究の方法

対象となる患者様からあらかじめ同意をいただいて当科で凍結保存されている血清を用います。血清は検査会社(積水メディカルつくば研究所)に移送され可溶性 LR11 濃度を測定され、その結果はLR11-STUDY 研究事務局(研究責任者:堺田恵美子)に報告されます。測定後に残った血清は千葉大学血液内科に返却され保管されます。対象患者様の病気と治療に関わる診療情報(年齢、性別、診断名、診断時の検査データ、治療の内容、治療の効果)を診療録から収集し、血清可溶性 LR11 値との関連について解析します。

## 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院血液教室の鍵のかかる棚で保管します。

## 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関:LR11-STUDY 研究事務局  
千葉大学大学院医学研究院細胞治療内科学 血液研究室  
本件のお問合せ先:医学部附属病院血液内科  
医師 大和田 千桂子